

精神保健福祉事例支援のワンポイントアドバイス

このワンポイントアドバイスは、神奈川県保健福祉事務所等の精神保健福祉担当職員向けに作成したのですが、その中からひとつ御紹介します。

（「保健福祉事務所等における精神保健福祉業務のための精神保健福祉センターコンサルテーション事例集」（平成26年6月、神奈川県精神保健福祉センター）から）

ワンポイント

統合失調症の人が精神科につながると、どの程度良くなるかの見当のつけ方

一般に統合失調症では、陽性症状には薬が効きやすいので薬物療法が治療の中心になり、陰性症状には薬物療法のみでは不十分でリハビリテーションを要します。

薬物療法は効果が早く、リハビリテーションは時間がかかる上に、完全な回復にまで至らない場合もあります。

従って、陽性症状が主症状で陰性症状に乏しい症例は、薬が効きさえすれば相当な回復が期待できます。さらに陽性症状の中でも、急性で激しい状態の方が良くなりやすい傾向があります。

しかし陽性症状でも難治性の場合があるので、治療に導入すればその患者さんがどの程度良くなりそうかの見当をつけたいものです。治療効果が見込めるなら、時間と労力をかけても医療導入へのアプローチをするだけの価値があるからです。

統合失調症で増悪・軽快を繰り返す場合、毎回似たパターンを示す例が多々あります。一般的に統合失調症は再発・再燃を繰り返すほど軽快しにくくなる傾向があるものの、過去にどのような状態で入院し（その患者さんの最も悪い状態のとき）、退院のときにどの程度良くなっていたのか（最も治療効果のあがった状態のとき）がわかれば、治療効果は容易に想像できます。